

生徒指導	生徒指導の徹底	挨拶運動、清掃活動を中心に、基本的な生活習慣の形成が図れているか	前期	B	昨年度同様、元気の挨拶ができていないという課題がある。地域・学校・保護者が連携し、あたり前のこととして、習慣化できるように引き続き指導していきたい。	児童②あい	C	65	44	21	28	7	
						児童③清掃	A	93	57	36	7	0	
						保護者⑦	A	90	40	50	10	0	
						教職員⑨	B	80	0	80	20	0	
						地域住民④	A	91	37	54	13	0	
		目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定（3・4）	後期	A	挨拶運動では、一人一人が目標を立てて取り組み、元気の挨拶の声が聞こえるようになった。引き続き、当たり前のことが当たり前にできるように指導していきたい。	児童②あい	C	73	33	40	27	0	
					児童③清掃	A	93	73	20	7	0		
					保護者⑦	A	90	30	60	10	0		
					教職員⑨	A	100	20	80	0	0		
				地域住民④	A	100	72	28	0	0			
		いじめ、不登校問題への積極的な対応ができていますか	前期	A	高評価となっているが、安心することなく、これからも児童の細かな変化や言動に注意し、未然に問題を解決できるように努めていきたい。	児 童							
						保護者⑨	A	100	40	60	0	0	
						教職員⑩	A	100	20	80	0	0	
						地域住民							
		目標値：保護者、教職員の80%以上が肯定（3・4）	後期	C	前期と比べ評価を落とした。保護者との連携や児童の様子を見とることが不十分であったと考えられる。日頃から児童の様子や児童同士の関わりに注視し、早め早めの対応を心掛けたい。	児 童							
						保護者⑨	D	50	10	40	50	0	
						教職員⑩	A	100	40	60	0	0	
						地域住民							
	学校関係者評価委員の所見	・児童同士のトラブル等については、正しい情報が伝わっていないのではないかと。子どもからの情報のみであったり、他の保護者から伝わる情報のみであったりすると、誤解も生じるのだろう。教員と保護者がしっかり連携していくことが大切である。			学校の対応	・児童の様子について、全教職員による実態把握、情報交換を今後も継続して行っていく。また、よりよい指導を行うために、保護者との連携は欠かせない。直接の対話を通して、両者で同じ方向を向き、協力して支援していくという姿勢を崩さないようにしていく。							
保健管理	健康教育の推進	早ね、早起き、朝ごはんの習慣は定着しているか	前期	B	一昨年度から「早寝」の習慣化が課題となっている。今年度は、児童・保護者の回答から改善傾向にあるようだが、不十分なところもある。今後も、毎月の生活習慣調べや委員会活動等を通して、家庭と連携し、一人ひとりに合った指導を継続していきたい。	児童④寝起	B	86	64	22	7	7	
						児童⑤ご飯	A	93	64	29	0	7	
						保護者⑪	A	90	30	60	0	0	
						教職員⑫	C	60	0	60	40	0	
						地域住民							
		目標値：児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	後期	C	毎月の「生活習慣調べ」と委員会活動での「生活習慣調べ」を併用しながら取り組んでいるが、前期と比べ児童の評価が低下している。今後、児童自身が生活習慣を見直す機会を増やししながら、一人ひとりに合った指導を継続していきたい。	児童④寝起	D	53	40	13	40	7	
							児童⑤ご飯	C	67	60	7	26	7
							保護者⑪	A	90	30	60	10	0
						教職員⑫	B	80	20	60	20	0	
						地域住民							
	個に応じた体力づくりはできているか 体幹等も鍛え、正しい姿勢が維持できるか 目標値：児童、保護者、教職員の80%以上が肯定（3・4）	前期	C	業間のマラソンや放課後の水泳練習などを通して、体力作りができています。姿勢についての評価が低い。児童も自覚していながら正しい姿勢を維持することが難しいようだ。声掛けをするとともに、正しい姿勢の見本を例示したり、体幹を強化する運動を取り入れたりしていきたい。	児童⑥体力	B	100	86	14	0	0		
						児童⑩姿勢	C	56	28	28	44	0	
						保護者⑫	A	100	60	40	0	0	
						教職員⑬体力	A	100	33	67	0	0	
						教職員⑭姿勢	D	40	0	40	60	0	
						地域住民							
			後期	B	前期同様、姿勢の評価が低い。正しい姿勢について、声掛けをしたり、体幹を強化する運動を取り入れるも、成果としては十分ではない。引き続き、個に応じた体力作りと合わせて、体幹等を鍛え、正しい姿勢が維持できるように指導したい。	児童⑥体力	A	100	33	67	0	0	
						児童⑩姿勢	D	46	26	20	40	14	
						保護者⑫	A	100	50	50	0	0	
						教職員⑬体力	A	100	20	80	0	0	
						教職員⑭姿勢	C	60	0	60	40	0	
						地域住民							
	学校関係者評価委員の所見	・生活習慣は学校で指導するものではなく、基本的には家庭で指導すべきものである。チェックカードだけでは、本当のところが分かりにくい。			学校の対応	・正しい生活習慣の定着のためには、各家庭による指導が必要。学校では、家庭における生活習慣への意識付けをしっかりと行い、チェックカードを基に各家庭の協力を得ながら継続して指導したい。							
保護者・地域との連携	地域に根ざした特色ある学校づくり	地域の人材や教育資源を生かした体験的な学習を推進しているか	前期	A	四者ともに肯定率が高い。しかも「大変よい」への回答率が高く、地域に根ざしたよい学習ができていると考えられる。今後も生活科や総合的な学習の時間等、保護者・地域の協力を得ながら、充実した学習にしていきたい。	児 童⑬	A	93	79	14	7	0	
						保護者⑬	A	100	60	40	0	0	
						教職員⑮	A	100	80	20	0	0	
						地域住民⑥	A	96	59	37	0	4	
		目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定（3・4）	後期	A	前期に引き続き高評価となっている。地域の方々の御協力により、効果的な学習ができているため、今後も、計画的に進めていきたい。	児 童⑬	A	100	73	27	0	0	
							保護者⑬	A	100	50	50	0	0
							教職員⑮	A	100	80	20	0	0
						地域住民⑥	A	96	77	19	4	0	
	児童の活動の充実をめざし、公民館、老人クラブ、住民自治組織されだにとの連携に努めているか	前期	A	四者ともに肯定率が高い。本校では、地域の関係諸機関と連携を取りながら進めている行事が多い。地域の中にある学校という認識を持ち、今後も情報を共有しながら、よりよい教育ができるよう協力していきたい。	児 童								
						保護者⑭	A	100	70	30	0	0	
						教職員⑯	A	100	80	20	0	0	
						地域住民⑦	A	96	67	29	0	4	
		目標値：保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定（3・4）	後期	A	前期に引き続き高評価となっている。今後も、積極的に保護者、地域との連携を図っていきたい。	児 童							
						保護者⑭	A	100	60	40	0	0	
						教職員⑯	A	100	80	20	0	0	
						地域住民⑦	A	100	86	14	0	0	
	学校関係者評価委員の所見	・田植えやどろんこ遊び、太鼓、万歳など、本校ならではの行事が多く、学校と地域との結びつきが強い。また、学童クラブが校舎内にあることもあり、情報交換することで、連携を深めることができています。			学校の対応	・本校は、多くの地域人材に恵まれており、各学年の授業や学校行事等で御協力いただき、効果的な学習ができている。今後も、地域の方々の協力を得ながら、地域に根ざした特色ある学校づくりに向けて努力していきたい。							

研 修	教職員の資質と指導力の向上	計画に沿って研究授業を行い、授業改善に積極的に取り組んでいるか	前期	C	まだまだ研修が軌道に乗っておらず、評価はCであった。今後、複式学級における効果的な学習の進め方、また、ICTを利用した効果的な学習等について研修を深め、実践につなげていきたい。	児 童							
		目標値：教職員の80%以上が肯定（3・4）	後期	A	前期と比べ、評価が上がった。計画的に研修が進められたことと、I C Tを利用した学習、オンラインの効果的な利用により、児童がタブレットの扱いに慣れてきたことが向上した要因と考えられる。	保護者							
		教職員のコミュニケーション能力は高まっているか	前期	A	学校・家庭・地域が連携するためにも、重要な内容である。高い肯定率を得られているが、「4：大変よい」がさらに増えるよう、今後も保護者・地域とのコミュニケーションを大切にしていきたい。	教職員⑰	C	75	0	75	25	0	
		目標値：保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定（3・4）	後期	A	全体的に評価が上がった。教職員が積極的に保護者や地域の方々とコミュニケーションを図ろうとした姿勢が高評価につながったと思われる。今後も教職員から積極的に話しやすい雰囲気づくりに努め、児童のために協力体制の確立に努めたい。	地域住民							
		学校関係者評価委員の所見	・地域の行事に教職員が積極的に参加しており、学校と地域との関わりが強くなっている。			学校の対応	・地域との関わりが多い学校であることから、家庭・地域の協力が得られるよう、積極的な働き掛けをしていきたい。また多くの方とのコミュニケーションを大切にしながら、よりよい教育活動ができるよう努力していきたい。						
安 全 管 理 ・ 施 設 管 理	安全安心でうるおいのある学校づくり	安全確保のための見守り活動は充実しているか	前期	A	児童の登校中、飛び出しがあったとのことで、児童の肯定率が低くなっている。保護者や地域の方の協力的な見守り活動に感謝の気持ちを持ち、まずは自分で自分の命を守るという意識を待たせたい。	児 童⑦	C	78	71	7	22	0	
		目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定（3・4）	後期	A	全体的に評価が上がった。地域の方や保護者による見守り活動により、児童は安全に登校することができた。保護者、地域の方々が積極的に関わってくださっていることに感謝したい。	保護者⑯	A	90	30	60	0	10	
		落ち着きと元気が出る、教室環境、校内掲示、屋外環境の整備が進んでいるか	前期	A	職員が少なく行き届かない部分は、保護者の方や地域の方々に助けていただき、よりよい環境の中で日々の教育活動を行なうことができていることに感謝したい。	教職員⑱	A	100	20	80	0	0	
		目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定（3・4）	後期	A	前期より評価が上がった。子どもたちが安全に楽しく学校生活が送れるよう、保護者や地域の方々と協力し、今後も環境整備に努めていきたい。	地域住民⑨	A	96	67	29	4	0	
		学校関係者評価委員の所見	・校内掲示では、前向きな言葉遣いがなされるよう工夫がされている。 ・保護者・地域の皆様が学校周辺・通学路の環境を整備してくださり、助かっている。			学校の対応	・校内掲示については、「いじめSTOP愛顔の子ども会議」に参加した高学年が、本校でできることを考え実践した。本校の課題解決に向けて、児童の自治的な活動により実践できるよう、今後も指導していきたい。 ・通学路危険箇所への対応、春と夏2回にわたる奉仕活動など、保護者、地域の方が積極的に環境整備に当たってください本当にありがたい。今後も、保護者や地域の方々と協力しながら、児童が安全・安心に生活できる学校環境の整備に力を入れていきたい。						
	業 務 改 善	働き方改革と業務の効率化による心身の健康保持	校務分掌は適材適所に配置され、過度な負担となっていないか	前期	A	個々が多くの校務分掌を抱え、多忙な日々を過ごしているが、全職員で助け合いながら校務を行って	教職員21	A	100	0	100	0	0
				後期	A	前期同様、互いにカバーし合いながら仕事をしていることができる。	教職員21	A	100	0	100	0	0
			能率的に仕事ができるよう職場内の環境を整えようとしていたか。（I C Tの活用・地域人材の活用・行事精選など）	前期	C	一人の負担が大きい中、能率的に仕事をするためには、なくすもの・削るものという視点で活動を見	教職員22	C	75	0	75	25	0
				後期	A	コロナ禍ということもあり、行事については職員や地域の方と相談し、簡素化したり効率よく進めたりしながら実施することができた。	教職員22	A	100	25	75	0	0
			残業は、月45時間以内となっているか。	前期	D	実質的に、月45時間以内の残業は難しい。効率よく仕事したり協力し合ったりしながら、1学期以上に残業時間短縮	教職員23	D	0	0	0	50	50
	後期	D	仕事にめりはりを付け、残業時間の短縮に努めたい。	教職員23	D	25	0	25	50	25			
	前期	A	残業100時間を超えることはなかったことで安心できない。目標はあくまで月の超過時間45時間。	教職員24	A	100	50	50	0	0			
	後期	A	100時間を超えることはなくても、残業時間が減ったとは言えない。短縮に向けて努力したい。	教職員24	A	100	100	0	0	0			
	学校関係者評価委員の所見	・コロナ禍において、今まで以上に校務が増えているかもしれないが、なるべく残業時間を減らす努力をしてほしい。			学校の対応	・一人一人の校務が多いため、どうしても放課後の仕事が多くなるが、互いにカバーし合いながら、個々の物理的な仕事の負担と精神的な負担を軽減していきたい。							

ご意見等

（保護者） ・ あいさつ、言葉遣い、そうじ等は学校と家庭で協力し指導することで、身に付けさせたい。 ・ コロナ禍で生活が急変したが、子どもはしなやかに生活できている。 ・ 不登校等の問題について、小さい学校だからといって安心することなく、日々の生活を大切に過ごしていきたい。 ▲ 先生がいないときに、いじわるをされることがあると話すことがある。 ▲ 良い生活習慣が定着するよう家でも指導しているが難しい。良い方法があればアドバイスがほしい。 （地域） ・ 新型コロナウイルス感染が心配。気をつけながら生活してほしい。 ・ コロナで地域とのつながりが減っている。Zoom等新しいコミュニケーションの手段が必要かもしれない。 ○ 先生方が通常の業務に加えて、感染予防のための対策をしているため子どもたちは安全に過ごせている。 ○ 児童一人一人に心配りし、地域に密着した授業が行われている。 ○ 個性豊かな子どもたちだが、先生方が子どもたちに寄り添い育てている。 ▲ 礼儀など基本的なことができる児童を育ててほしい。 ▲ 発表会で、「○○地区、○年、○○○○」と名乗っていただけるとありがたい。	
--	--